

Sakado Tsurugashima Fire Department



伝統  
伝承

坂戸・鶴ヶ島消防組合  
50周年記念誌



## 発刊にあたって

管理者 石川 清

このたび、坂戸・鶴ヶ島消防組合の設立から50年という大きな節目を迎え、これまで消防行政発展のため、ご尽力を賜りました関係者の皆様に心より感謝を申し上げる次第であります。

坂戸・鶴ヶ島消防組合は、当地域の消防体制充実強化を図るため、昭和47年10月に坂戸市、鶴ヶ島市の2市を管轄する消防組合として発足いたしました。設立当時の坂戸市、鶴ヶ島市の管内は、人口が約4万6千人でありましたが、首都近郊という地理的条件から、住宅地、マンションの造成、大型倉庫の進出などの都市化の進展により、現在では人口約17万人と急増し、大きく躍進している地域でございます。

さて当消防組合は、発足から50年を経た現在、1消防本部、2署2分署、職員210名を有する規模・組織力を誇る消防本部に発展してまいりました。

この間、地域の皆様の力添えを賜り、施設や装備の整備充実、組織の拡充を図り、消防力の強化に努め、地域の安全確保のため、幾多の変遷を経て数多くの災害に対して、住民の安全確保に努めてまいりました。

このような状況下、40周年からの10年間におきましては、様々な災害が発生しており、令和元年10月に発生した「令和元年東日本台風」では、管内に特別警報が発令され、大規模な水害により甚大な被害が発生しました。防災拠点でもある坂戸消防署東分署も浸水被害を受けたことから、地域のご理解を受け移転事業を含めた施設や装備の充実強化を進めております。

これもひとえに関係各位のご理解とご支援によるものであると深く敬意を表すところでございます。

災害から生命・身体・財産を守るという消防の原点を踏まえ設立から50年という節目をこれから先に向けた体制づくりの契機に取り組んでまいりたいと思っております。

結びに、今後も地域に密着した消防として地域の皆様の安全と安心を最優先に取り組んでまいっている所存でございますので、皆様のご支援、ご指導を賜りますようお願い申し上げます。設立50年にあたっての挨拶とさせていただきます。



## 50周年を祝して

議長 加藤 規夫

坂戸・鶴ヶ島消防組合が発足50周年を迎えられたことを心からお祝い申し上げます。

消防組合が発足した当時の人口は4万6千人あまりでありましたが、令和4年10月1日には約17万人を数えるまでとなり埼玉県西部を代表する中堅都市として発展してまいりました。

坂戸市、鶴ヶ島市は、埼玉県の中央付近に位置し、関越自動車道及び首都圏中央連絡自動車道が通る首都圏へ交通のアクセスが良く坂戸西スマートインターチェンジ付近と圏央鶴ヶ島インターチェンジ付近は、大型倉庫の建設が進められており、さらなる地域経済の促進が期待されるところであります。

坂戸・鶴ヶ島消防組合議会といたしましても、災害に強く安全で安心な地域社会づくりに向けて消防防災体制の充実強化をさらに推進してまいっている所存でございますので、皆様におかれましても地域住民の信頼と期待に応えるべく、更なるご尽力をお願い申し上げます。

結びに、消防職員、消防団員の皆様方におかれましては健康にご留意され、ご活躍されますとともに、50周年を契機に坂戸・鶴ヶ島消防組合が益々発展されますことをご祈念いたしまして、お祝いの言葉に交えさせていただきます。



## 50周年を迎えて

消防長 中村 政美

坂戸・鶴ヶ島消防組合が昭和48年4月に消防署を設置し、50周年の記念すべき年を迎えられたことを心から慶ぶとともに、これまで多くの消防関係者皆様のご苦労やご協力に敬意を表し、深く感謝申し上げます。

消防組合発足当初は、消防本部10名、消防署28名の計38名でスタートし、皆様方のご尽力をいただき、現在、1消防本部2署2分署、職員210名によって、坂戸市、鶴ヶ島市の市民の生命、身体及び財産を火災等の災害から保護することを目的に日々消防活動を行っております。

発足時から振り返りますと、超高齢社会を迎え、救急需要が増加するとともに、大規模地震、大型台風や線状降水帯による集中豪雨などの自然災害、また、強風下における建物火災、大型倉庫火災の発生など消防を取り巻く環境は大きく変化し、消防への行政需要はますます高まっています。

こうした状況下において、令和元年10月に発生した「令和元年東日本台風」では、管内において甚大な被害が発生し、はじめて災害救助法が適用されました。

今後において、いつ発生しても対応できる消防体制を構築していき、消防職員一人ひとりが熱意をもって創意工夫をするとともに、誠心誠意邁進してまいっている所存でございます。

結びに、関係各位のこれまでのご尽力に対しまして、改めて感謝を申し上げますとともに、安全で安心して生活ができる街づくりのために、消防体制の充実強化に努めてまいりますので、今後とも、皆様のご支援とご理解をお願いし、発足50周年を迎えての挨拶とさせていただきます。

# 消防組合の沿革



▲昭和47年10月1日 坂戸・鶴ヶ島消防組合設立 仮事務所で業務開始



▲消防本部・消防署



▲東分署



▲南分署



▲西分署



▲制服

▲活動服



昭和



▲防火服



▲救助服



▲救急服



平成

令和



▲消防本部・坂戸消防署



▲坂戸消防署東分署



▲坂戸消防署西分署



▲鶴ヶ島消防署



▲令和元年度台風19号で水没した坂戸消防署東分署



▲令和6年度完成予定の坂戸消防署東分署イメージ



▲消防出初め式



▲オンライン消防出初め式

# 消防車両・救急車両の歴史



▲坂戸2号車



▲鶴ヶ島資機材2号車



40周年  
(2012年)



▲坂戸1号車



▲救助工作車



▲坂戸救急2号車



▲坂戸指揮車



30周年  
(2002年)



▼水槽車



▼坂戸梯子1号車



20周年  
(1992年)



▲坂戸救急1号車



発足～10周年  
(1972年～1982年)



▼坂戸梯子1号車

※現行車両のみ車両名表記

# 坂戸市消防団 ・ 鶴ヶ島市消防団

## ～ 自らの街は、自らの手で ～

### 消防出初め式

古式腕用ポンプを使用して昔ながらの放水体験ができます。



### 防災訓練

大規模災害時の自助・共助の重要性を伝え、地域防災力の向上に努めています。



### 辞令交付式

新入団員等に対して辞令を交付し、決意を新たに防災活動に取り組めます。



### ～ 消防団 ～

消防団は様々な職業を持ちながら「自分達の街は自分達で守る」という精神の下、平常時・非常時間問わず地域に密着して、地域住民の安心と安全を守るという重要な役割を担っています。近年は、女性の消防団員も増えており、応急手当の普及活動などで活躍しています。

### 救助資機材取扱認定

エンジンカッター、チェーンソー、電動コンビツール、可搬ウインチの取扱訓練を行い、地域防災力の向上を目指します。



### 歳末特別警戒

歳末に消防団員が無災害を願い、明るい新年を迎えられるよう巡回警戒、火災予防広報を行っています。



### 消防操法大会

消防団員が「安全・確実・迅速」の精神の下、訓練で培った器具取扱い及び操作の基本技術を競っています。



### 車両特別整備

ポンプや救助資機材等の整備状況の検査を行い、災害対応に備えています。



### 特別点検

消防の職務遂行に必要な「人員・服装・規律の点検」を実施して、常に消防活動に万全を期しています。





予

防

- ・ 防火管理体制の不備、消防用設備の不備等は、火災発生時、延焼拡大を促し、大きな被害をもたらします。災害を未然に防止するため、消防法令に基づく立入検査は、消防の重要な責務の一つとなります。
- ・ 管内事業所の防火体制の確立、防火思想の普及啓発を目的として、屋内消火栓操法大会、自衛消防実務者研修会及び危険物施設総合消防訓練を実施しています。
- ・ 一定規模以上の防火対象物の管理権原者には、防火管理者を定め、消防計画の作成、訓練実施等の業務を行わせるよう消防法第8条第1項で義務付けられています。当組合では、昭和49年から甲種防火管理新規講習会を開催し、令和4年10月現在までに5053名の方が受講されています。



地域における防火意識の高揚及び普及を目的として「坂戸・鶴ヶ島防火安全協会」「坂戸地区婦人防火クラブ」「坂戸地区少年消防クラブ」「鶴ヶ島市少年消防クラブ」「坂戸・鶴ヶ島幼年消防クラブ連絡協議会」が設立されました。市民の安全安心を守るため、啓発活動に努めています。



## 警防編

警防業務は、火災等の警戒、被害の軽減及び防除するために  
行う活動です。



火災はいつどこでどの様な  
かたちで、襲ってくるかわ  
かりません。そのために日  
々訓練を重ねております。



## 消火活動訓練

指揮隊が中心になって、消防隊、救助隊、救急隊が連携訓練することによって、  
実際災害への連携強化に繋がるよう実施されています。



## 高圧ガス対応訓練

災害が発生した際、甚大な被害になることから、関係機関と連携を図り訓練を  
実施しています。





守りたい人がいる  
～大切な命～

当組合では、6台の高規格救急車を運用し、  
令和4年は9,167件の救急事案に出場しています。



市民の方々の安心した生活を守るため、  
高度救命資器材の整備など、救急体制が充実。



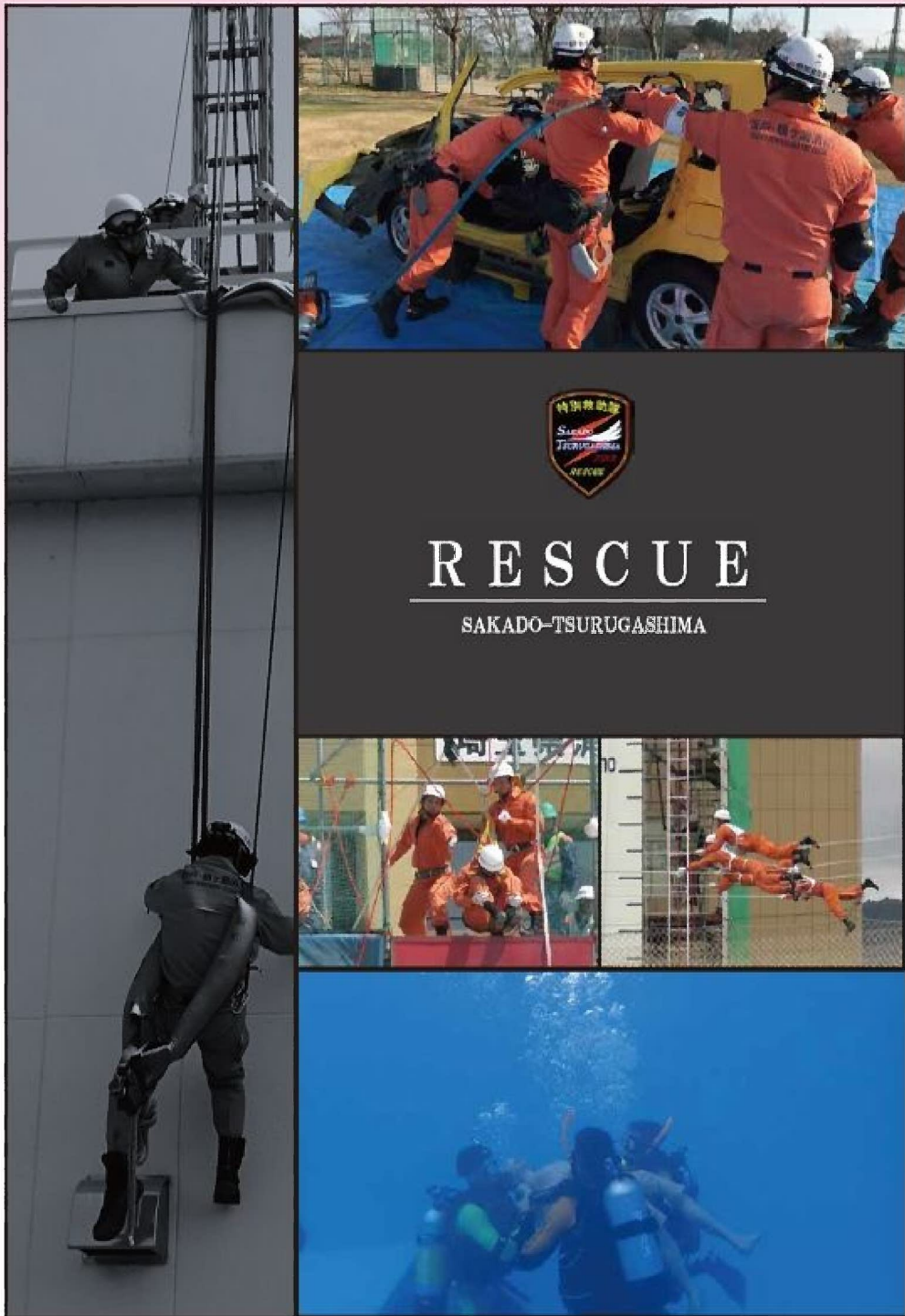
高度救命処置を施すことのできる救急救命士は救急隊のスペシャリスト



「救命の連鎖には、あなたの勇気が必要です!!!」







# RESCUE

SAKADO-TSURUGASHIMA



## 災害に強いまちづくり（救助編）

市民の方々の安全と安心を守るため日々様々な訓練を行ってきました。その一部をご紹介します。



### 合同訓練

埼玉県警察や東京電力株式会社などの関係機関と災害現場で協力して対応できるように合同で訓練を行っています。



### テロ災害対応訓練

テロ行為など社会情勢により変化する人為的な特殊災害が発生したとしても市民の方々の安全を守る訓練を行っています。



### 救助技術指導会

救助活動に必要な不可欠な体力、精神力、技術力を養うことを目的とした救助技術指導会にて、隊員の努力が実を結び複数の種目にて消防救助技術関東地区指導会、全国消防救助技術大会に出場しました。



### これからの救助

大規模な地震や洪水等の自然災害や火災や交通事故、人為的なテロ災害など、我々の生活が変われば市民を襲う災害も変化していきます。時代とともに変化していく災害に対応し、市民の方々の安心と安全を守っていきます。

# 消防指令センター



## Firefighting command center

～消防指令センターの歴史と変遷～

119



### 消防指令センターの歴史

昭和48年	4月1日	消防用無線を導入、基地局を佐草橋所に設置 移動局2台を消防車及び救急車に搭載
	12月16日	消防緊急一斉指令装置を設置 自動計測気象観測装置設置
昭和63年	2月10日	救急無線送話装置、基地局1台 車載用移動局4台を導入
平成2年	3月26日	消防緊急情報システム整備
平成12年	11月24日	基地局設備の改修及び金網波の導入
平成13年	3月23日	自動出動指定装置及び地図等検索装置の購入
平成17年	3月27日	高機能消防指令センター運用開始
	4月1日	消防本部に指令課を設置
平成25年	3月18日	高機能消防指令センター指令装置等部分更新
平成26年	9月1日	位置情報通知システム（統合型）運用開始
平成27年	3月13日	訓練塔、電波塔建設等工事
	4月1日	坂戸・鶴ヶ島消防組合・西入間広域消防組合 消防指令センター共同運用開始
平成28年	6月1日	消防緊急デジタル無線運用開始
平成29年	10月1日	多言語翻訳システム運用開始
平成30年	3月15日	高機能消防指令センター部分更新
令和2年	4月20日	NET119緊急通報システム運用開始
令和3年	5月1日	埼玉県西部地域消防指令事務協議会（埼玉県西部 消防組合、坂戸・鶴ヶ島消防組合、北企広域市町 村消防組合、西入間広域消防組合）発足



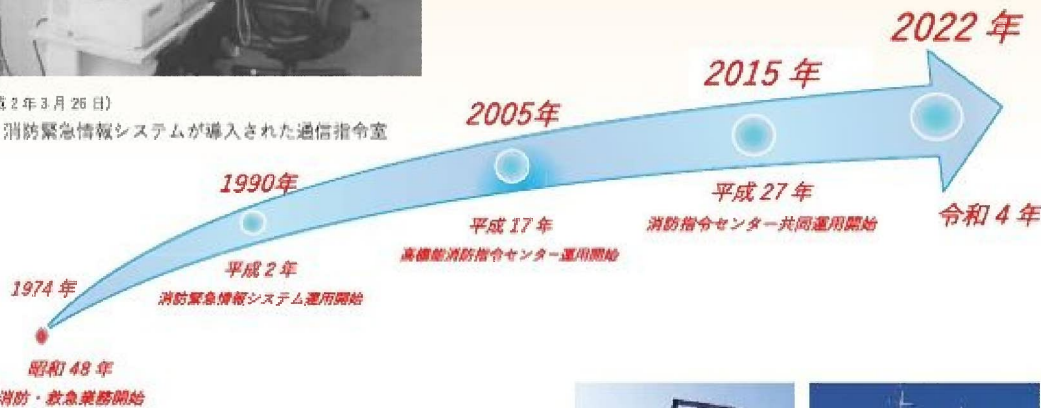
(平成2年3月26日)  
▲ 消防緊急情報システムが導入された通信指令室



(平成17年3月27日)  
▲ 埼玉県初の高機能消防指令センター



(平成27年4月1日)  
▲ 共同運用が開始された坂戸・鶴ヶ島消防組合・西入間広域消防組合消防指令センター



(昭和48年当時)  
▲ 消防組合の初期の通信指令室



(平成26年当時)  
▲ 電波塔になる前の訓練塔



(平成27年3月)  
▲ 電波塔として生まれ変わった訓練塔



(令和4年現在)  
▲ 機器の更新がなされた現行の消防指令センター



▲ 令和6年度運用開始予定の  
(仮称) 消防共同指令センターイメージ図

# National Fire Service Team

# For Disaster Response



## 緊急消防援助隊

National Fire Service Team for Disaster Response

### 災害派遣実績

大規模災害や特殊災害が発生した場合は、被災地の消防機関では対応できないことがあります。

被災地からの要請を受け、各都道府県から応援に駆け付ける部隊が「緊急消防援助隊」です。

坂戸・鶴ヶ島消防組合も平成23年に発生した「東日本大震災」の際に、被災地へ応援に駆け付けました。

### 合同訓練

今後発生が予測される首都直下型地震や南海トラフ地震も含め、緊急消防援助隊の要請があった際に、日本各地の消防機関と連携し、迅速な活動ができるように合同で訓練を行っています。





**坂戸・鶴ヶ島消防組合管轄エリア**

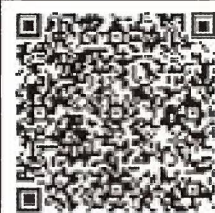
埼玉県のおお中央に位置し、坂戸市・鶴ヶ島市で構成する消防組織です。管轄面積は58.67km<sup>2</sup>、管内人口約170,000人を有し東京都心から45kmの圏内にあって、その立地条件から、産業経済の発展と都市化が進むとともに豊かな自然環境をとどめ、明るく住みよい都市として発展を続けています。



# 坂戸・鶴ヶ島消防組合

おかげさまで50周年

消防組合HP



消防組合 YouTube